

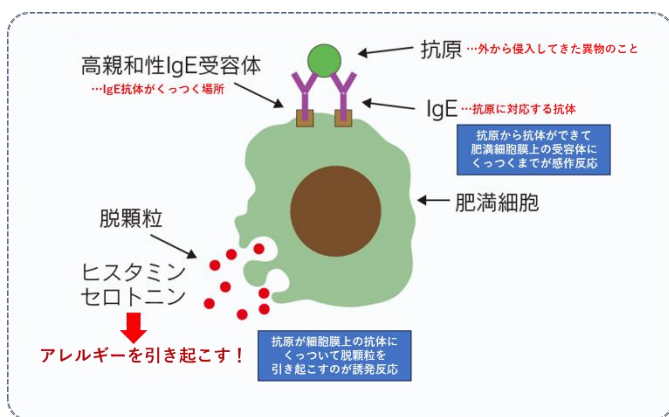
～プラセンタエキスの抗アレルギー作用について～

☆アレルギーとは？

異物の侵入から自分の体を守るために、私たちの体には**免疫**というものが機能しています。その免疫反応が病的に作用してしまい体に害を与えてしまう場合を**アレルギー**と言います。アレルギーにはI型からIV型までのタイプがありますが、その中でも多くのアレルギーが**I型アレルギー**とされていて、アナフィラキシーショック、アトピー性皮膚炎、気管支喘息などが挙げられます。

☆I型アレルギーの反応について

I型アレルギーの発生は、抗原から抗体が作られる「**感作**」反応と、抗原と抗体が反応し症状が引き起こされる「**誘発**」反応の二段階に分けられます。



○**感作反応**：花粉やダニなどの抗原と呼ばれる異物が体内に侵入すると、その抗原に合う抗体 IgE が作られます。この抗体 IgE は、皮膚や粘膜に存在する肥満細胞の細胞膜上にある高親和性 IgE 受容体に結合します。この反応によりアレルギー反応が起こりやすい状態（感作状態）になります。

○**誘発反応**：再び侵入した花粉やダニ抗原が感作反応によって肥満細胞膜上にくっついた IgE 抗体に結合すると、肥満細胞がヒスタミンやセロトニンといった炎症を引き

起こすための物質（**ケミカルメディエーター**）を放出します。この現象を**脱顆粒**と言います。そして放出されたケミカルメディエーターによってアトピー性皮膚炎や気管支喘息などの症状を引き起こします。

☆プラセンタエキスの抗アレルギー作用について

正常な肥満細胞に対して人工的に脱顆粒を引き起こさせるという実験を行いました。その過程でブタプラセンタエキスを添加した場合とそうでない場合の比較を行ったところ、ブタプラセンタエキスを添加した群で脱顆粒している肥満細胞の数が優位に減っていることがわかりました。また人工的に脱顆粒を引き起こし、ひっかき行動を誘発したマウスに、抗アレルギー薬で知られるシプロヘプタジンとブタプラセンタエキスを投与したところ、どちらも強くひっかき行動を抑制する結果となりました。

皮膚表層の大部分を占めるケラチノサイト（角化細胞）は NO と呼ばれる物質を産生し、アトピー性皮膚炎の痒みの増強を引き起こしていると考えられています。NO はアレルギー反応に伴い増加するとされていますが、ブタプラセンタエキスはこの NO の産生も抑制することがわかりました。これらのことからブタプラセンタエキスがアトピー性皮膚炎などのアレルギーに起因する皮膚炎症や痒みを改善する効果があると考えられています。

★総括★

ブタプラセンタエキスには肥満細胞の脱顆粒抑制作用およびそれに基づく搔痒（そうよう）の抑制作用があり、さらにアレルギー反応に伴う NO 産生を抑制することから、抗アレルギー作用があると考えられアトピー性皮膚炎など症状改善に効果があるとされています。

参考文献：亀井淳三，明壁史弥，手計雅彦，高橋洋：ブタプラセンタエキスによる抗アレルギー作用．アレルギーの臨床，32(3): 75-78, 2012